

和光市国際化推進懇話会委嘱式及び第1回会議

会議要録

- 日 時 平成22年3月24日（水）午後1時から4時
- 会 場 和光市役所6階 602会議室
- 出席者 遠藤葉子、田中明、近長武治、宮内邦雄、高富暁子、田中茂穂、溝部絢子
（敬称略）
- 欠席者 伊藤弘嗣、山崎勝、竹腰満（敬称略）
- 和光市 和光市長 松本武洋、企画部長 大寺正高
- 事務局 人権文化課長 河野、人権文化課主幹 寄口、文化国際担当統括主査 亀井、
同担当主事 中村、和光市国際交流員 阿久津

1 委嘱式

市長による委嘱書の授与

2 あいさつ

- (1) 和光市長 松本 武洋
- (2) 和光市企画部長 大寺 正高

3 自己紹介

(1) 委員自己紹介

独立行政法人理化学研究所 遠藤 葉子
和光ライオンズクラブ 田中 明
和光国際交流会 近長 武治
和光ロータリークラブ 宮内 邦雄
公募市民 高富 暁子
公募市民 田中 茂穂
公募市民 溝部 絢子

(2) 事務局自己紹介

4 第1回会議

(1) 会長・副会長の選出について

会長は和光ライオンズクラブの田中明さん、副会長は公募委員の高富暁子さんに決定。

(2) 和光市国際化推進懇話会について

事務局：資料「和光市国際化推進懇話会設置要綱」及び「和光市国際化推進懇話会について」
について説明。

(3) 和光市国際化推進懇話会会議の議題について

事務局：1年目は、和光市国際化推進計画の策定をお願いしたい。2年目は、策定後の計画

に基づきどのような国際課推進施策を実施していくかについて話し合っていたきたい。

7月に第2回会議を開く。その時に、事務局から計画の素案を提出するのでそれについて審議してもらいたい。第3回会議は10月に予定しており、第2回会議で話し合った素案の改訂版を提案するので審議をお願いしたい。平成23年1月頃に第4回会議を開催し、素案を最終決定したい。事務局でパブリック・コメントを実施し、その結果を踏まえ、3月の中旬頃に計画を完成させる。

事務局：市の国際課推進の方向性について。市では、現在、第四次総合振興計画を策定しているが、この中に、「自ら学び心豊かに創造性を育むまち（教育・文化・交流）」という基本目標があり、その中の基本施策として、「国際平和と人権尊重のまちづくり」という柱がある。国際化推進計画は、第四次総合振興計画と整合性のある、またはこれに基づいた内容で策定することとなる。

重要な取組み課題は次のとおり。① 市民・国際交流団体・企業・研究機関等の国際交流・協力活動を支援し、ともに国際化を推進していく。また、外国籍市民と日本人市民が交流する機会や場を提供し、多文化共生意識の普及を図る。具体的には、外国籍市民との交流会や、和光市国際ネットワークの充実が考えられる。② 外国人にも暮らしやすい環境づくり。内なる国際化ということで、平成22年度からボランティア制度も始めるが、そちらにも力を入れたい。③ 多面的な国際交流の促進。姉妹都市をはじめとする様々な地域との交流促進を図り、市民のロングビュー市に対する認知度をさらに高めるとともに、ロングビュー市における和光市の周知・PRを実施する。

田中会長：ご意見やご質問はあるか。

溝部委員：市内の小学校では、国際理解教育が大きな柱になっている。それを活かして、外国人と日本人の子供たちが自然に共生できる社会を和光市は目指すべきだと思う。

そのために、外国人の子どもたちに対する教育について考えてもらえないだろうか。和光市でも外国籍の子どもが増えてきて、彼らがずっと日本に滞在すると進学の問題が出てくる。日本社会でちゃんと生きるために高校へ進学したくても漢字などの受験の壁に阻まれる。そういう問題に直面している生徒が実際に出てきているので、その対策を考えてもらいたい。

近長委員：懇話会で議論したことが平成23年度の推進計画にどのように活かされるのか。国際化推進というのは、外国人の数が増加しているかどうかは関係ない。国際化の問題をどのように和光市の施策に取り組むのか。和光市が取り組まないと困ることになるかもしれないという視点もあるし、プラスの思考もある。

考え方を整理すると、時代の特徴をどう考えるのか、ということだ。例えば、外国人の小中学生が増えているという問題は、定住の色彩が強まっているということ

だ。もう一つは、和光市が国際化というフィルターを通すとどういう特徴があるのか、ということ。① 日本に住んで働いている人たちは、和光市には少ないということ。② 理化学研究所に勤務している人は知的水準も高いし、ケアも基本的に必要ないが、日本の文化を知りたいと思っているということ。③ 日本人と結婚した人たちも多いということ。子どもが学校に行く人もいる。

どういふ国際化の切り口をするのかが大事である。現在の国際化推進計画には、① 市民の国際理解の促進、② 外国人が暮らしやすい環境の整備、③ 市民による国際交流活動への協力・支援、とある。これではスペックがはっきりしない。懇話会では、もっとスペックをはっきりさせて、役に立つような意見の集約にしなければならない。

外国人の子どもの問題は、文部科学省も手をやいている。外国人の子どもは義務教育ではなく、学校も受け入れる義務がない。したがって、受け入れなくても構わない。日本の文部行政がそうなっている。和光市だけでやろうとしても難問だと思うが、市としてどれくらいまでできるのかは考えられると思う。

グローバル化の中で日本がどういう位置にあるのか、どういふ検討の切り口をするのか、和光市から見たらどのような点に気をつけながら国際化推進をするのか、ということをお話し合うべきだ。

田中委員：平成13年からしてきたことを、「初めて国際化として何をしていくのか」、話し合うのはおかしいと思う。フィードバックがなければ、当然この会（懇話会）はおかしい。市は、もっと方向性を示せるのではないか。平成13年から始まっているのだから、軌道修正をして話し合っていくべきだ。近長委員の話のようなこともあるのかもしれないが、和光市としてはこうするし、懇話会はこうだ、と言うまでだ。

事務局：計画というものは抽象的になりがちだが、市役所が切り口を作らなくてはならない事務局が素案を作るので、これについて協議してほしい。

外国人の来日目的も確かに変わってきた。普通の会社員の中国人も増えてきて、その子ども達も増えている。そういった軌道修正は図らなくてはならない。

田中委員：理化学研究所のように、(国民を)日本に派遣している国は、自国民を守るため、大使館を持っている。日本の場合だと、日本語学校やインターナショナルスクールを作るなど、必ずお金を出している。勝手に行ってこいという国はない。理化学研究所にいる外国人たちも、勝手に日本に行けと言われていない人はいない。

市として、どこまでかはやらなくてはならないが、個々にやるのは大変であり、どこかで折り合わなくてはならない。それをまとめるのは霞ヶ関だ。和光市が全部やるのは不可能だ。また、朝霞や新座と全く違うのもいけない。一番住みやすい条件のところに行け、ということになる。

近長委員：うまくいくと行政は関わるようになる。高校進学ガイダンスを始めたところ、新

聞社が後援して好評だった。今は教育委員会が前面に出て実施している。

以前、バスツアーを実施したが、私はこのようなことをしても意味がないと言った。これだけお金があるなら、他にできることがあると言ったのだが、予算をとったから実施しないといけないという話だった。

しかし、6ヶ国語の地図の作成はひじょうに良かった。この地図を持って外国人と歩いたほうがよいと提言した。というのは、歩けない道もあるのが分かるはずだからだ。道路行政に問題があることも分かるだろう。国際化というのは、いろいろな視点があると思う。和光市の抱える問題もはっきりしないといけない。

宮内委員：溝部さんの日本語教育の問題だけでなく、インターナショナルスクールを作ってほしいと言って2年経った。ここでも話したが、どうなったか全く分からない。理研・県庁・市・国際高校と相談したが、最終的には和光市にはお金がないから勘弁してくれという話だった。お金の要らない方法も提案したが、梨のつぶてだった。

田中委員：ここまでやったとか、市から話がないのはおかしい。梨のつぶてというのはおかしい。この会を蔑ろにしていることになる。

宮内委員：どのように解決すべきかについて、毎月2回、勉強会を開いており、いろいろな意見が出ている。この仕事はボランティアだと思っている。

近長委員：委嘱されたのだから、行政に影響があるべきだ。しかし、自分たちは行政の内部にいないから、行政が何をやっているのか分からない。ある問題に対して、どういう方向なのかを確かめないと分からない。

田中委員：そうであれば、期限を設ければいいのではないか。

近長委員：前任期の懇話会では、お金がかかることはしないでくれと言われ、お金がかからない報告書という形で提言した。人権文化課で予算をとってくれとは言わないが、例えば、「道路を歩いている外国に恥ずかしくないようにしたい」といったことを提言したって良い。市長に提言が届いて、「和光市の街づくりを、今後、外国人からの視点も含めた道路計画にしていく」と、聞いてくれるなら良い。しかし、今までそのようなことはなかった。

また、ロングビュー市からの書籍を活用するよう提言をした。これについては、教育委員会から「なかなか難しい」と言われたが、このように答えが返ってくるなら良い。今年はロングビュー市との姉妹都市締結10周年なら、中央公民館でのロングビューに関する特別講座を開いたらどうかと提言したが、お金がかからないのにも関わらず、やっていない。

田中委員：何かをするにはお金がかかるが、和光市が国際化を推進するのに何をしたらよいのかを考えるために知恵を出すのであるから、こちら側の問題でもある。こういうことがしたいができませんか、と提言していくのが仕事なのだから、調整は市とやることになる。フィードバックがあるのかと先程聞いたが、ないなら辞めたほうが良

い。提言する時に、これが必要だとかこれだけ時間が必要だとか考えれば良い。丸投げして答えをくれというのでは、悩んでしまうだけだ。

ただ、計画の策定だけを1年間やって、それからこれはできますか、というやり方は止めたほうがいい。計画を立てる時に、どの程度実効性があるのかをシュミレーションしながらやっていくべきだ。そうでないと、計画だけ立てて、どのようにやりますか、という話になった時に、予算や人員不足により全部できない、という事態になってしまう。

近長委員：協働という言葉が流行りだが、この懇話会もそうでないといけない。「議事録には書きます。報告書にも書きます。でも、それをやるかどうかは『自己の責任と判断で国際化推進の方向性を決定します』（資料1）」では困る。

田中委員：そういうことではないのではないか。事務局はあくまでも事務局だということだと思ふ。

高富副会長：外国人の立場で少し話したい。以前志木に住んでいた時、市役所を使うということ考えたこともなかった。外国人はそういう認識がない。個々の外国人のサポートができるのか、しているのか、市に聞けば分かるという体制を作ってあげれば、みんな利用するようになる。そんなに費用がかからないのではないだろうか。

遠藤委員：行政が提言どおりにやっていないのではないかと、という歯がゆい思いがあるという、近長委員の意見に納得する部分はある。

大枠を作ってからどのような計画を立てるのか、というやり方は、違和感がある。外国人のためだけではないが、道路を整備したほうがいいのではないかと、教育の問題など様々な問題がある。そういった問題を解決するために、大きなテーマを考えるべきだ。どんな問題があるのか洗い出してみるというやり方も悪くはないのではないかと。

理研では、住宅が足りなくて公団や民間と契約しているが、連帯保証人の問題が大きくなっている。外国人がきちんと生活できるということが和光市の国際化となる。外国人と親しむイベントを企画するよりは、外国人が生活しやすくするのが国際化ではないだろうか。

宮内委員：理研の外国人で一番問題なのは教育の問題。子どもたちが教育を受けられる環境が整っていない。理研の優秀な研究者は40代とか50代だが、給与はそんなに高くない。東久留米のインターナショナルスクールは比較的安い、月20万以上かかる。奥さんが大使館に勤めるなどしてようやく家計をまかなっている。外国人と日本人が仲良くするようなプランではなく、外国人が日本で暮らすにはどうしたらいいのか、というプランにすべきだ。

田中委員：理化学研究所が和光市にとってどういうものなのか、という問題もある。そのようなことをするには和光市民の税金を使うことになるのだから。どういう形で日本に

外国人研究員が来ているのか知らないが、企業なら企業負担があるだろう。日本の海外駐在員も同じだ。

近長委員：懇話会委員として、議論の問題として考えてほしいということを、会長に提出することにしたらどうだろうか。それを整理しながら話し合わないと集約しないのではないか。

溝部委員：最初に近長委員が提案した話に戻るが、和光市がどのような切り口で国際化を推進するのか、という基本的なところが曖昧なのではないかと思う。私たちも意見を出して、事務局も考え方を出してつき合わせないと、何も始まらないのではないか。第2回会議に向けてコンセンサスを得るには、前もって各委員に意見を提出してもらって、打ち合わせしたりするのはどうだろうか。

また、和光の国際化に大事な要素として、理化学研究所の問題をどう考えるのか。理研を特別扱いするのはデリケートな問題だと思う。

近長委員：和光市には国の機関として大きな組織がたくさんあり、無視できないと思うが、そのことをどう考えるのか。

宮内委員：国際化の話し合いをこんなにする市もなかなかない。日本一の国際化都市にしたいと思っているが、認識が浅かったのかなとも思う。和光市はいろいろ良い条件があるから、もっと国際化できると思っている。

高富副会長：外国籍市民がどういう方なのか分からないが・・・。

近長委員：個人情報の問題で教えられないと職員から言われたことがある。

高富副会長：大卒なら分かるのではないか。

宮内委員：理研の研究員が随分増えていると思う。2年前は480人だったが、今は800人だ。

近長委員：日本国籍だが言葉の問題がまだある人もいて、なかなか把握できない。外国人が相談するケースがひじょうに少ない。

高富副会長：それは、分からないからではないか。

近長委員：川口市では多言語で対応しなくてはならない。ハローワークでの通訳等、市役所は大変な思いをしている。

田中委員：定住者がいるのかどうかを調べれば分かることだ。それくらいは市役所で分かるだろう。その話は、川口市という特殊性がある。全く情報を開示するわけではないだろう。定住者かどうかで役所も扱いが違うのだから。個人情報の問題ではない。

田中会長：事務局で、そのあたりの資料をできる範囲で集めて、次回会の議に用意してほしい。

事務局：次回の会議は7月にしようと思っている。何日か候補を挙げ、皆さんに意見を聞いて日程を決めるということよろしいか。

田中会長：近長委員の提案のように、計画に盛り込むことを事前に提示するというようお願いしたい。

田中会長：では、提案の提出は4月中旬までとする。

事務局：会議要録は、作成後、市ホームページと庁舎内で公開する。出席した委員の了解を得てから公開するので、確認をお願いしたい。写真の公開に問題のある方はいるか。

全員：特にない。

田中会長：長時間ありがとうございました。

事務局：第1回懇話会を終了する。ありがとうございました。